

至学館大学

健康スポーツ科学科 小論文 出題意図

問題1

「社会の変化は激しい」ことは誰もが認めることであろう。受験生においても、日常的な学習から身の回りの生活、社会生活で感じることであり。

入試問題の意図は、過去10年間(小学生中学年から高校生活)の社会・日常の変化を振りかえることができ、その原因を携帯電話・パソコン・日常家電や社会でのキャッシュレス化、AI機能の向上等を「電子機器の普及」と捉え、そのメリットとデメリットを、今後進学する学部・学科の学びに結び付けられるかを問う。また、そのことをもって、入学時での自らの進学意図を自問自答できる学生の獲得に繋げる。

問題2

生徒や家庭環境の多様化、教務や事務のデジタル化や複雑化に伴う教員の負担軽減策を考えるのは妥当である。しかしながら、その答えについて部活の地域移行があたかも正解であるかのような論調、メディアによる世論形成がなされ、実際に施行され始めている。

本問においては、教員の負担減を解消するためなら正規の教員を増やす、という選択肢を教員になる可能性のある受験者に熟考、及びその論理展開を持つきっかけとして準備した。この問題に正解はない。賛成、反対どちらでもよいが、大学生となった際、一部の論調に対して疑問や多角的な視点を持つことの重要性を問う。

至学館大学

栄養科学科 小論文 出題意図

栄養科学科の資格・活動入試では、英語(TOEIC、TOEFL)や情報処理などに関する技能をもった学生を想定している。それらの資格試験では受験方法等が、既にデジタル化されており、受験生は日常的なデジタル活用について、興味や経験があると考えられる。

そこで、この問題は、管理栄養士の業務として身近な「社員食堂」をテーマにして、デジタル情報(ICタグ、キャッシュレス決済、データ管理)が、給食運営にどのように活用されているかを説明させることを目的としている。管理栄養士を目指す学生を対象にしているので、給食を利用する側の立場と、運営会社側の効率や経営面の両方を考察し、具体的に説明できる能力を評価する問題として出題した。

至学館大学

こども健康・教育学科 小論文 出題意図

今回の小論文の出題は、＜志願者が本学科の受験生に求める学修内容と入試における評価観点＞の「2.子どもへの指導や支援等を科学的かつ効果的に行うために、高等学校までに学修した知識・技能を活用し、さらに様々な見方・考え方を働かせて課題を自ら発見し、解決に向けて探求するための基本的な思考力・判断力を身につけ、考えや成果等を発信するための基本的な表現力を有していること。」を問うものである。

具体的には、放課後の子どもの居場所づくりの取り組みの現状を理解したうえで、自分の学童期の経験を振り返ることで、子どもにとって望ましい環境とはどのようなものかを分かりやすく語れているかをみる。

最終的には、自らが大人としてどのように地域や子どもと関わることができるのかを具体的に述べているかをみる。

至学館大学

体育科学科 小論文 出題意図

スポーツに関連する現代的な課題について分析・考察し、その内容を指定された文字数で論述する能力を問うものである。